平成３１年度　第１回　川崎市小学校教育課程研究会　報告書　北部

分科会名

総合的な学習の時間

令和元年６月12日（水）

会　場　　川崎市立東柿生小学校
助言者　　川崎市立小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究会
副会長　　西村　勇一郎　小林　美代
川崎市総合教育センター　　石井　芳宏
授業者　　川崎市立東柿生小学校　　4年　小越　文絵
6年　宮野　利隆
司会者　　川崎市立小倉小学校　　船木　愛
記録者　　川崎市立平間小学校　　石橋　修一
世話人　　川崎市教職員組合　　阿部　広宣
出席者数　　１４１名

案の概要

4年「みんなにやさしい東柿生のまちをめざして」

東柿生で暮らす様々な人の立場から、東柿生のまちの危険や安全について調査をしたり、話を聞いたりすることを通して、みんなの安全や安心を守るまちの工夫や人々の取り組みとそのよさや大切さを知り、自分たちも地域の一員として東柿生の安全を守っていこうとする思いをもち、考えるようにする。

6年「未来に繋ごう～持続可能な里山を目指して～」

自分たちの地域にある早野里山の自然に触れるとともに、里山を守り、里山の良さを伝えている地域の人々との関わりを通して、里山の自然が様々な人々の努力によって守られていることを知り、自分たちも主体的に里山への活動に参加したり、よさを伝えたり広めたりし、この先も里山の自然や人々の想いが続くように考えを深めることができるようにする。

２　研究協議の概要

（4年）

本時では、警察の方に聞いた話や自分たちがまちを歩いて気付いたことをもとに、安全マップをつくる活動を行った。単元のゴールについての質問に対して、単元構想図より授業者の思いを共有し、「自分たちがここで暮らしていくのに、何ができるのかを自分で考えていく」子どもの姿をめざしたいということだった。また、ゲストティーチャーを効果的に活用するために、人選と綿密な打ち合わせの必要性について共有することができた。

（6年）

本時は、「持続可能な里山にするために自分たちにできることは」という主発問のもと、子どもたちが話し合い、今後の見通しをもつことをねらいとした授業だった。自分たちにできそうなことを１２の項目にまとめ、それをピラミッドチャートで優先順位をつける活動を行ったが、その意図について、授業者は順位付けをする中で活動の共通点を見いだし、これからの活動につなげていきたいと答えていた。また、「持続可能な里山」について話し合う中で、児童の理解にずれがあったことから、「持続可能」の言葉の意味について、事前に子どもの言葉で共通理解しておくことが必要だったという意見が上がった。

３　今後の課題

（4年）

講師より、７０時間の単元計画では、前年度のよさを活かして子どもの実態に合わせた計画や他教科との関連も単元構想図に位置づけることや、アンケート調査やリサーチなど、情報を広く集めて集計するなど分析してもよいというご助言をいただいた。

（6年）

指導講評では、単元構想図に他教科との関わりが分かりやすく表れていてよかった。思考ツールについては、ねらいに合ったものを用いるようにすること。単元を進めていくうえで、子どもたちの思いを大切にしてほしいというご助言をいただいた。